



NK、設計ソフトのNAPAと連携強化

設計ソフトのNAPAと連携強化

NK、調和CSR対応ソフトなど開発計画


日本海事協会(NK)は5日、国際船級協会連合(IACS)の調和構造規則(H-CSR)に対応したソフトウェア「PrimeShip-HULL(HCSR)」と、「NAPA Steel」の開発で、フィンランドのNAPAと連携を強化した開発計画を発表した。

NKは世界初となる調和CSRに対応したソフトウェア「PrimeShip-HULL(HCSR)」を発表し、広く国内外の造船設計者へ提供している。算式計算ソフトウェアと直接計算ソフトウェアで構成される「PrimeShip-HULL(HCSR)」は、単なる強度評価ツールにとどまらず、設計支援ツールとしての豊富な機能を実装しており、調和CSRにおける設計工数の削減、構造の最適化検討を支援している。

一方、「NAPA Steel」はNAPAの船舶設計システム「NAPA for Design」を構成する上流CADソフトウェアで、迅速かつ簡易な船舶構造データの作成や高品質なFEモデル作成機能に定評がある。

NKはNAPAとの緊密な協力のもと、造船所や設計会社における、より迅速な調和CSRのための船体構造モデル作成、重複入力作業の削減による設計効率化を目的として、「PrimeShip-HULL(HCSR)」と「NAPA Steel」との連携強化を進める。開発計画の概略は以下のとおり。

- (1) PrimeShip-HULL(HCSR)算式計算ソフトウェア: 横部材のデータ連携機能(油タンカーの貨物区域) = 14年末までに提供
- (2) PrimeShip-HULL(HCSR)直接計算ソフトウェア: データ連携範囲拡大 = 14年末までに提供
- (3) PrimeShip-HULL(HCSR)算式計算ソフトウェア: 横部材のデータ連携(バルクキャリア及びプロダクトタンカーの貨物区域) = 15年中頃
- (4) PrimeShip-HULL(HCSR)算式計算ソフトウェア: 横部材のデータ連携(船首尾部) = 15年中頃
- (5) PrimeShip-HULL(HCSR)直接計算ソフトウェア: 全船一括解析機能 = 15年

[記事一覧に戻る](#) [この記事印刷する](#)